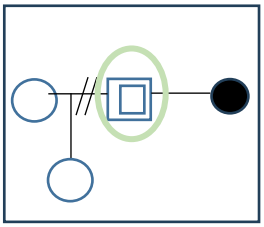
■ 事例報告　　［守谷市南部地域包括支援センター］

**A 氏［男性］** 80 歳



【病　　名】　認知症

既往歴：上部消化管出血、十二指腸潰瘍　医療機関へ定期的に受診
令和 6 年10月認知面の低下により受診中断

【家族背景】　独居/戸建て/離婚歴あり

再婚し、後妻との間に子はない　※10 年程前に後妻は他界

前妻との間に長女1人　離婚後まったく連絡を取っておらず関係性は薄い

【介入時の生活状況】

・身体機能の低下あり（動作緩慢）
・排泄の失敗があり、部屋中に使用済みの紙おむつが散乱
・日付の感覚がなく、近所の人や娘を覚えていない
・賞味期限切れや腐敗した食品が部屋に放置

【支援経過】　今年度 80歳になり高齢者訪問対象者

令和6年11月　民生委員から情報提供あり

「近所の方から何度か救急車を呼んでいる、自宅内が荒れてきている」

包括職員が訪問、認知面の低下が伺えた　→ 1週間毎の定期訪問

令和6年12月【初旬】

・車で外出時に場所がわからなくなり警察が保護→警察から疎遠であった長女に連絡
車の運転をやめる指導が入り、長女が窓口となって廃車の手続き
→長女に介護保険の説明と申請を勧めた

【中旬】

・近所で親交がある隣人から包括に相談
「通院の付き添いや買い物の支援をしていたが、最近は隣人の名前が出てこない」
「お礼として腐った果物や賞味期限の切れた弁当などを持ってくる」
→定期訪問を継続し、状況確認

【下旬】

・隣人より「具合が悪そうだ」と連絡、 包括職員と長女で自宅へ訪問
救急搬送されたが、入院の必要性がないと判断され帰宅
翌々日、食事がとれず脱水と衰弱がみられ、再度医療機関受診してそのまま入院
入院と同時に介護保険申請、ケアマネジャーと契約しサービスの導入の調整

令和 7 年 1 月

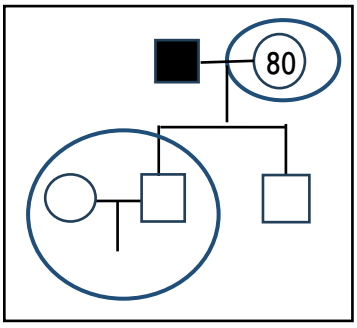
・退院後、介護サービスを利用し在宅にて生活継続中

【今後の方向性】

長女は施設入所を希望、サービスを利用しながら施設入所の調整中、支援継続

■事例報告　　［守谷市北部地域包括支援センター］

**B 氏［女性］** 80歳




【病　　名】両膝変形性膝関節症
令和6年10月　右膝人工関節置換術
左膝も同様の手術を実施するか検討中

【家族背景】独居/戸建て
近所長男家族在住 / 次男 県外在住

【介入時の生活状況】
・右膝の手術し退院直後であるため、何とか生活しているが移動に困難を感じている
・歩行は屋内伝い歩き、屋外はＴ字杖使用
・トイレ　自立／　入浴　浴槽には入れず、シャワー浴のみ
・調理　立ち座りを繰り返して実施　／　洗濯　１階の屋内干し

【支援経過】今年度　80歳になり高齢者訪問対象者
令和6年10月15日　訪問（不在１回目）　不在票投函　→　連絡なし
11 月05日　訪問（不在２回目）　不在票投函
11 月08日　不在票をみて本人より連絡
「膝の手術のため40日ほど入院し不在だった」
→　入院中に介護保険申請「要支援2」の認定
屋内での移動が大変で手すり等を設置したいと希望あり
11 月 15 日　包括職員と福祉用具の業者と同行訪問
→　浴室と玄関・裏勝手口等の自宅内の環境調整が必要と判断
11 月 22 日　レンタルと住宅改修の提案
［浴室］グリップ・台・滑り止めマット
［トイレ］横手すり設置
［玄関上がり框］手すりと台の設置
［裏勝手口］Ｌ字手すり、外の段差に手すり設置
12 月　　住宅改修　着工
令和７年１月　生活機能相談（ICF）を実施
リハビリの専門職より本人の動作と設置した手すりの高さや位置を確認、環境の微調整

【今後の方向性】
手術後の状態に合わせレンタルと住宅改修で、環境調整を行った。現在は通所や訪問の介護保険のサービスを使わずに在宅生活を継続中。今後、状況の変化に応じ必要なサービスを相談しながら実施していく。